

おおさかコモンズと岸本聡子・杉並区長

写真は、おおさかコモンズの案内リーフレット。「うちわ」な話だが、センスがよい。上に小さく「わたしの声が、とどくまち。あなたの声が、つくるまち。みんなに身近な、大阪へ」と書かれている。「市民発・提案するまちづくり」にも同感。昨日レポートしたように、おおさかコモンズが企画した18日の学習会に参加して、コモンズへの期待が高まった。



学習会で岸本聡子さんに質問したかったことが2点あった。ひとつは、グローバルに活躍する岸本さんが杉並区長選に立候補を決断した思い、それと「再公営化」に向けた自治体の課題、欧州の取り組みなどだ。当日は時間の関係で質問できなかったが、東京新聞ウェブによると、21日の日本外国特派員協会での記者会見で、岸本区長は次のように語っていた。

欧州から区長選への出馬を決めた理由については「日本の民主主義のための仕事をしたいとずっと思っていた。地方自治体は抜本的な変化を起こせる」。区政サービスや保育、再開発など地域の課題を住民から聞き取ることによって「変革が必要だと思い、住民のために、住民と共にやれると感じた」と振り返った。注目した発言も紹介したい。



気候変動問題では、アムステルダムなど各地で市街地への車両規制が行われていることを挙げ「自治体は真剣に取り組むべきだ」と強調。「(2050年までに二酸化炭素の排出実質ゼロを目指す)『ゼロカーボンシティ』を多くの自治体が表明しているが、言葉だけにも見える」と批判し、社会の意識も高まらないことには「政府が深刻に考えていないことも理由の一つだ」と語った。介護職の賃金引き上げのほか、同性カップルのパートナーシップ制度を導入し、男女の事実婚も含めて公的な認証を与える考えも示した。地域の強いつながりや活発さは「杉並の宝でありユニークさだ」とも。「区職員はとても熱心で有能だ。一步ずつ公約を実現していきたい」と意欲を示した。

学習会で紹介された〈さとこビジョン〉対話から始まる、みんなの杉並構想 2022年6月18日 Ver.3[基本姿勢]を紹介したい。

- ・杉並区の「憲法」とでもいうべき、「杉並区自治基本条例」に則って行政を進めます。
- ・隠しごとのない、透明な区政を実現します。区長に公用車はいりません。
- ・区立施設と区の職員は、「コスト」ではなく、杉並の「財産」です。
- ・当事者の声、しっかり対話、綿密な調査から政策をつくります。
- ・ジェンダー平等は多様で小さな声を聴くための基盤です。多様性は杉並の豊かさと力です。
- ・高齢者が一人で生きられる、女性、少数者が安心して無理なく働ける杉並新時代をつくっていきます。

(2022年7月23日)